

皆さん、今日は、銀河の雫の初上映会に、来てくださってありがとうございます。

映画はいかがでしたか？

僕は白雪姫プロジェクトを、応援したり、この映画の配信をしている、一般社団法人、ロバの耳の代表理事をしている宮ぷーこと、宮田俊也です。

このように 自宅から 遠く離れた 仙台の地まで 飛行機に乗って 僕が来られるとは 以前の僕には 予想もできませんでした。われながら 驚いています。

僕のように 普段、座位保持装置に乗っているひとが 飛行機に乗るためには 航空会社をふくめて 多くの人たちが じつにいろいろの 事前の用意が 必要です。

はたしてそんなことができるだろうかという迷いもありました。けれど、多くの方が僕の背中を押し てくださいました。僕が、いま、このステージに立つまでには多くの物語があったと感じています。

僕は今から、およそ7年半前の2009年2月20日に、脳幹出血という病気で倒れました。

倒れる前日まではおろか、当日の昼までさえ、病気の気配はまったくありませんでした。

それは突然、訪れました。

夜中にひとりで自動車の運転をしていたとき、突然、だんだん体が自由に、動かせなくなったのです。曲がりたい小道の交差点で曲がりません。

それでもなんとか車を家のすぐ近くの、勤務先の駐車場にとめることができ、そこから家族に電話を かけました。

家族と言っても、当時、僕のまわりで、頼りになるのは、近くに住む妹がいるくらいでした。

今もそうですが、僕はひとりぐらしでした。

電話の声も、うまくロレツも、回らず、それも真夜中に、自分の居場所を妹に伝えられたのは、奇跡に 近いと思われます。

しばらくして妹が来てくれました。そして、救急車を手配してくれました。

この時、妹がすぐに、来てくれなければ、きっと死んでいたでしょう。

脳幹出血の生存率は、ものすごく低いのです。およそ1割しかありません。

こうして、僕は、大学付属病院に、かつぎこまれました。

実際のところ、僕の状態は、絶望的だったと思います。瞳孔は開いたままで、舌が口から出てしまっ ていたそうです。内臓の動きもなく、呼吸器をつけないと息もできない状態だったそうです。

最初は、僕に関わってくださった4人のドクターのうち、3人が、「このまま死なせてあげたら」と 言われたそうですが、残りの一人のかたが、僕が年齢的に若いので、生きることはできるかもしれない と言われたそうです。

けれど、生きていても、もういっしょう、目覚めることもなく、植物状態だろうと思われました。 そんな僕が、いま、このステージに立って、みなさんの前に立てたのは、かっこちゃんが、特別支援 学校で、子供たちといて、回復方法があることを、知っていて、常識とは違うかもしれないけれど、 その方法でリハビリを続ければ、回復すると信じて疑わなかったからです。

大学病院での2ヶ月間の記憶はほとんどないけれど、倒れたすぐから、かっこちゃんが、大丈夫、 宮ぷーは大丈夫と言い続けてくれたことは、なんとなく、記憶というか、感覚は覚えています。 そのころから、かっこちゃんは、グラグラした体の僕を、隠れて起こしたり、揺らしたり、話しかけ たり、し続けてくれたようで、映画などを見て、すごく感動をして、感謝しています。 もし、どんなことをしても、無理とっていたり、方法を知らなかったら、すぐに、体も、硬くなり、 今頃、立つリハビリもできていなかったと思いますし、それどころか、思いも、伝えられないままに、 いたことでしょう。

意識が戻ったときに、僕は体のどこも動きませんでした。何かを伝えたくても、何もできない。 でもそのときに、かっこちゃんの顔がいつも目の前にあって、だいじょうぶだと言い続けてくれま した。僕のわずかな動きも決して見逃さないという、かっこちゃんの思いというか、技術が、僕の

気持ちを引き出してくれました。そうです。

ほんの1ミリの動きに、かっちゃんも、気付いてくれました。このとき、僕は、相手に、自分の考えが伝えられる喜びを、実感しました。わかってもらえた。わかってもらえた。それは、ひとすじの僕の生きる光となりました。それまでは、ドクターでさえ、僕には意識があると、思っていなかったのです。

これをきっかけにして、僕の体は、ちょっぴりずつ、動き出したのです。

やがて、イエス、ノーのみで、伝えることしか、できなかった僕が、ほんのすこし動かせる指につけたスイッチとレッツチャットという機械を、使って、いろんな人に、思いを伝えられるようになりました。

こういう機械を、意思伝達装置と言いますが、実際、僕のいた、病院で、これを使っている人は他にいなかったと思います。かっちゃんが、特別支援学校でひとりひとりの子供達と、コミュニケーションを取る方法を、ずっと、探し続けていたことで、知っていたのです。

ところで、このように書くと、すぐに、回復したように、見えますが、自分で思うように、合図が送れるには、6ヶ月の月日が必要でした。

僕は心がどちらかというと、弱いと思います。すぐにめげそうになるし、どうせ何をしてもかわらないんだと思ったこともありました。でも、死ぬことを考えたのは一度だけでした。妹に殺してくれと頼んだときに、妹が、「どうして、私がお兄ちゃんのために、人殺しにならないといけないの。それは絶対にいやだ」と言ってくれました。

何度もかっちゃんに、「このままもう変わらないと周りの人はいうけど、かっちゃんは回復するという。どちらが本当なの？」と尋ねました。そのたびに、かっちゃんは、「あきらめなければ、回復する。回復するかしないのは、誰が決めるわけでもない、ドクターが決めるのでもない。それは宮ぶーが決めるのだ」と言いました。

あきらめない。決してあきらめない。その心でいれば、人間の中にあるものすごい力で、回復していけると僕はいまは信じています。でも、実際はまだできないことがほとんどです。この講演の文字も、書くのは簡単ではありませんでした。

ひとつひとつの、とても時間がかかります。この文章は、完成前に3ヶ月以上もかかっています。

僕の回復に応援をしてくださったひとりが、「僕のうしろに道はできる」の映画を撮ってくれた岩崎靖子さんです。最初は、回復はしないと思われていました。そんな僕を一生懸命とって、映画にはならない可能性もあったはずですが、でも、回復を信じて映画を撮ってくれました。映画をとってもらっているから、がんばろうという思いもとても大きかったです。

転院した脳神経外科病院には、およそ、6年間、入院していましたが、しだいに、かっちゃん以外の人が、何人か、本当に、奇跡的な、出会いなどが、いろいろあって、来ていただけるようになりました。ありがたかったです。その人たちは、チーム宮ぶーという名前になりました。

チーム宮ぶーができて、ぼくのリハビリを手伝ってくれるようになったのです。

それまでは、かっちゃん一人しか、できないリハビリが二人でするようになって、パワーアップできたし、それ以外にも、病気になったおかげで、こんなにも、人というのは、優しく、温かいものだとなることができました。

僕は倒れる前、あまり人を信じられる方ではありませんでした。

けれど、チーム宮ぶーの皆さんは、それぞれが、自分の家庭があるなか、ボランティアで来てくれます。感謝しています。人というものは、こんなにも優しいものなのかと僕は、よく考えます。今のぼくがあるのも、チーム宮ぶーのみなさんのおかげです。

もちろん、病院のスタッフのみなさんにも、大変お世話になりました。皆さんや、かっちゃんや、チームの皆さんのおかげで、少しずつですが、回復をして、体のいろいろなところが、ちょっとずつ、動き出したのです。

そんなふうにして、リハビリをして、5年後に、病院を退院して、一人暮らしが始まりました。

一人暮らしから2年経ちます。訪問看護師さんが毎朝来てくれて、朝の用意をしてくれて、僕はデイケアに行きます。帰ってくるのを、かっちゃんとチームのみなさんの誰かが待っていてくれます。

チーム宮ぷーの方々もかっちゃんも、毎日来てくれます。何年もそれを続けるのは、本当にすごいことだと思います。自分だったらできない。できないことを、してくれていることに、感謝の思いで、いっぱいです。

今の僕は、かっちゃんやチーム宮ぷーの みんなや、妹だけでなく、訪問介護に来てくださる、看護師さんや先生、そして、デイやショートステイのお世話にもなっています。みんなの助けなしには、僕は1日も送ることができません。

でも、多くの方は、奥さんだけ、ご主人だけが、介護をされている場合もあるでしょう。社会の中で、やはり、家族だけでは、つぶれてしまうのじゃないかと思います。

助けてもらっている本人が、言うのも、おかしなものですが、周りの方、どうぞ、温かい手を、皆さんに、貸していただきたいと思います。どうぞお願いいたします。

これは、本当のことです。僕のように体が動かないものが、自分に誇りを持って生きることは簡単ではないと思います。

もし、世話をする人が疲れていては、けっしてみんなですべて幸せになることはできません。

そんな僕は、こんな状況の中では、なかなか社会活動に、参加しづらいと思われていましたが、ロバの耳の代表理事になることで、障害がある人でも、社会参加できることを、しめしたいのです。

やはり、僕は、自分の生きる意味を、見つけたいのです。生きていだけでも、大切な命ですが、やはり、お世話になっている社会に対して、お返しをしたいというのが、僕の気持ちです。

4年前、かっちゃんは、僕のような状態になって、あきらめている人がたくさんいることを知って、回復や意思伝達の方法を伝えようと白雪姫プロジェクトを立ち上げました。4年経ち、大きな成果をあげていると僕は思います。回復する方法があること、みんな思いがあるということ、一般常識にすることが大切だと思うのです。

先日、相模原の障害者施設で、大変な事件が起きました。障害を持っている人は、幸せではなくて、そして、ただ、お荷物になっているだけなのかということ、みんなが考えた事件だったと思います。こういう気持ちは、事件を起こしてしまった人だけでなく、本当は、心の奥に、多くの人が持つ気持ちかもしれません。きっと、ぼく自身の中にも。あるものなのかもしれません。たとえば、泥棒や殺人を犯してしまう人は、いらないんだという気持ちは、やがて、誰かを差別する気持ちにもつながると思います。

僕ができることは、僕は体も動かないけれど、とても幸せだよ。楽しいことやうれしいこともいっぱいあるよ。みんなで一緒に生きていこうよと、僕はもっともっと伝えていかなくてはいけないと思います。そうすることが、こういった事件を無くする一助にならないかと思っています。

ところで、銀河の雫の映画はどうでしたか？

このネパールの映画は、大地震の後も、変わらずに、一生懸命に日常を送る、ネパールの人々の姿が描かれていて、僕は、とても感動しました。

僕は病気になりました。それは、僕にとっては、もちろん、とても大きな出来事でした。ネパールの人々の大地震は、僕の病気と同じほどの、大きな出来事のはずです。

僕は一時期、自分のことしか考えられないこともありました。いいえ、いまも僕はつい自分のことばかり考えてしまいます。それなのに、ネパールの人たちが優しさを忘れずに、相手を思う姿や、世界中の人々の幸せを祈る姿は、素晴らしいと思います。

僕は、最初、かっちゃんが、ネパールへ行って、映画を撮って、監督もすると聞いたときに、とても驚きました。正直、無理だと思ったし、心配でなりませんでした。

学校に勤めていたときに、かっちゃんの周りは、いつも子供達でいっぱいでした。

かっちゃんはしょっちゅう、怪我をしたり、失敗したりします。とんでもないこともします。それが心配で、子供達はいつも、そばにいたように、思います。僕もその一人でした。子供達も僕も、ほうっておけないというか、また、とんでもないことを言ったりしなかったらいいのになあと、思っていたと思います。

そんなかっちゃんが、映画を作るというのです。また、とんでもないことを言い出したなあと思いました。それに、今の僕は、何も手伝ってあげることもできないのです。とても心配をしましたが、

周りのみなさんが、かっこちゃんを助けてくれました。

ありがとうございます。僕の映画に出てきますが、僕が倒れて、すぐに、小林さんや、さかねさんや、赤塚さん、てっちゃんに、「かっこちゃんをお願いします」とあかさたなスキャンで頼んだことがありました。僕が倒れて、何も手伝えないうのがつらいのです。今日はたくさんみなさんにもお願いしたいです。「かっこちゃんをおねがいします」

なぜかという、かっこちゃんはとんでもないことをいつも言い出すのですが、それは、自分のためじゃないのです。弱い子供たちのために、誰に対しても、泣きながら、伝えるのです。あとで、あのとんでもないことは必要だったとわかります。この映画は大切な映画だと思います。

かっこちゃんが、学校の子供達に、いつも言っていたこと。みんな素敵だということや、誰もが大切に、争わなくてもいいということが、本当のことなんだとわかる映画になっていたと思います。

僕は、チーム宮ぷーのみんなで、字幕を確かめるために、映画を見た後、感想を言い合ったときに、最初に、難しいと言いました。それは、映画が難しいという意味ではないのです。映画はこんなにもやさしく伝えてくれていると感じましたが、とても内容が深く、一度で全部を消化することが、難しいほど、大切な映画だと言いたかったのです。何度も何度も、噛みしめるように見て、本当に大切なことが、何か、きっとわかってくる映画だと、僕は言いたかったのです。ぜひ、みなさんの感想も教えていただきたいです。

僕はロバの耳の代表なので、みなさんの感想がとても気になります。

この上映会の後、一般上映会が始まります。ロバの耳の代表としてだけでなく、かっこちゃんの友人として、また、地球の幸せを願う一員として、お願いします。この映画を広めてください。争いを世界中から無くすために、ぜひ、自主上映会のお申し込みをお願いいたします。自主上映の収益は、ネパールの子供達やみなさんの支援や、白雪姫プロジェクトをひろめることに、使われます。

お手元のちらしなどの中の、はがきのうらに、申し込みのアドレスが書かれています。また、ロビーではチーム宮ぷーのひろこさんが、自主上映の受付をしてくれています。まず、自分の家のテレビで上映会をしてみませんか？ みんな大切だという心を、まず自分の大切な仲間から初めてはいかがでしょうか？ みんなで、ひとつの命を生き、争わずにいられる世界にみんなでしたいのです。

最後にこの上映会を開いてくださった、しげちゃんと、とよちゃんと、僕をここに連れてきてくれたチームのみんな。そして、来てくださったみなさんに、心からお礼を申し上げます。しげちゃんと、とよちゃんは、どんなに大変だったでしょう。お二人は「宮ぷーとかっこちゃんを応援する会」という名前で、ずっと応援を続けてくれています。なぜ、人はこれほどまでに、誰かのために一生懸命になれるのでしょうか？

僕は何ができるのでしょうか？ そのことをよく考えます。

また、遠く離れていても、いつも僕のことを応援し、祈り続けてくださったみなさんにも、お礼申し上げます。本当にありがとうございました。

ぼくには、大きな役割ができました。ぼくは、これからも、がんばります。

山元加津子さんホームページ <https://kakkochannopage.wixsite.com/mysite/blank-2>

かっこちゃんが監督した映画「銀河の雫」の上映方法、白雪姫プロジェクト、メルマガの登録方法、かっこちゃんの講演会予定など、すべてわかります。

ぜひご覧ください。そして、ぜひ、かっこちゃんのメルマガにご登録ください。

ぜひ、映画「銀河の雫」を上映し、宮田俊也さんが代表理事を務めるロバの耳の活動資金にご協力をお願い致します。

宮田俊也さんのブログ紹介

「宮ぷー レッツ・チャットで今日もおはなし」

[https://ameblo.jp/miyapu-ohanashi/entry-12358402959.html?frm\\_src=favoritemail](https://ameblo.jp/miyapu-ohanashi/entry-12358402959.html?frm_src=favoritemail)

宮ぷーがレッツ・チャットを使って、自分でブログを書いています。

ぜひ読んでみてください。